

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

黙祷 雅歌 4:11 …… 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
 *賛美 …… 172番 雨をふりそそぎ
 *交読文 …… 50番
 *使徒信条 …… 会衆一同
 *頌栄 …… 173番 燃ゆるみたまよ
 礼拝のための祈り …… 成田エクレシア:朴執事 天声:小林伝道師
 賛美 …… 87番 主のまといし衣
 メッセージ …… いのちの御言葉を「生めよ、増えよ」させよ(創世記 1:27-28)
 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
 賛美 …… 89番 シャロンの花
 幸せと成功の宣言文 …… 会衆一同
 献金感謝の祈り …… パスター
 報告 …… コーエン夏季講義が 7/11 からあります。詳しくはチラシをご覧ください。
 *主の祈り …… 会衆一同
 *祝祷 …… パスター

天声教会は

- ・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。(ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5)
- ・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。(ローマ 10:10)
- ・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。(ローマ 10:10)
- ・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。(第二テサロニケ 3:5)

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

神は自分のかたちに____を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。神は____と____のパートナーを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」。(創世記 1:27-28)

知恵は、これを捕える者には命の木である、これをしっかり捕える____は幸いである。正しい____の結ぶ実は命の木である、不法な者は人の命をとる。

優しい舌は命の木である、乱暴な言葉は魂を傷つける。(箴言 3:18,11:30,15:4)

わたしは、きょう、天と地を呼んで____に対する証人とする。わたしは命と死および祝福とのろいを____の前に置いた。____は命を選ばなければならない。そうすれば____とあなたの子孫は生きながらえることができるであろう。

すなわち____の神、主を愛して、その声を聞き、主につき従わなければならない。

そうすれば____は命を得、かつ長く命を保つことができ、主が先祖アブラハム、イサク、ヤコブに与えると誓われた地に住むことができるであろう」。(申命記 30:19)

神は人を創造された時、男と女とに創造された。その時神は、人を「神のかたちに」創造された事を反復して強調し、彼ら、すなわち神のかたちの「男と女」が、生んで増えて地に充滿するように、また、地を支配し従わせるようにと、祝福された。つまり神は、「神のかたち」を身に着けた男女の結婚をこそ、祝福され、彼らを通して「神のかたち」がこの地に充滿し、彼らがこの地を支配し、治める、という事が、御心なのだ。

それなのに人は、善悪を知る知識の木から取って食べて以来、「神のかたち」を失ってしまった事が、創世記 3 章に記されている。神は言っておられた。**善悪の知識の木から取って食べるなら、必ず死ぬ**、と。事実、それを取って食べた直後に、早速、夫婦のいさかいや責任のなすりつけ合いが始まった(3:7-13)。

夫婦仲に限らず、親子や友人・仕事の関係など、**あらゆる人間関係でいさかいが起きる根本原因は、神ぬきの「善悪判断」を主張し合う事**だ。それによって、やましさを恐れが生じ、自分を覆い隠すようになるので、互いに相手が分からなくなり、攻撃的になるのだ。そうして、労苦と産みの苦しみが増し加わり、自力と自己主張の強さによって、生きなくてはならず、ついには「ちり」に還らなくてはならない。

神を抜きに生きる人は、ちりに過ぎず、ちりは「古い蛇(サタン)」の食べ物にされる以外にない。(3:14)

神様の御心は、人は、善悪知識の木からではなく、いのちの木から食べる事だった。私達が取るべき「いのちの木」は、箴言に書いてある。『**知恵は、これを捕える者には命の木である、これをしっかり捕える人はさいわいである。**』(3:18) つまり、まことの知恵であり、御言葉なるキリストを、しっかり握りしめ、暗唱し、私達の内にも充滿させる事によって、「神のかたち」を取り戻す事ができるのだ。また、『**穏やかな舌はいのちの木。偽りの舌はたましいの破滅**』(15:4) とあるが、原意は、治療的・救済的な言葉こそ、いのちの木であり、対して、人の善悪に由来する「ねじまがった舌」は、霊を破滅させてしまう、という事だ。だから私達は、神の言葉をしっかり捕らえ、穏やかな、治癒的な舌で、相手を穏やかな気持ちにし続けるべきだ。

自分由来の善悪判断の舌は人を切り刻んでしまう。『**妻のいさかいは、したたり続ける雨漏り**』(19:13) とある通り、思いつきの言葉をひっきりなしに浴びせ続けると、そこにいる人たちを病ませ、逃げ出させてしまう。

主にある男女関係が麗しくなるコツは、雅歌書の男女のように、相手を褒める愛の告白をひっきりなしに発言し合う事である。生き生きとした言葉で互いに関係づくりをしているカップルは、人をはつらつとさせる。生き生きとした言葉は、希望に満ちたビジョンを生み、それが活力とヤル気を生み、それらを実体化させて生まれてくるいのちや、成果物、事業こそ、生んで増えて地を支配する力が、みなぎっているのだ。

しかしもし、言葉のやりとりが乏しいなら、互いに「いちじくの葉」(3:7)で覆うようになり、相手が何を考えているのか分からなくなると、疑心暗鬼になり、攻撃的になって、互いに食い合ってしまう。『気をつけるがよい。もし互にかみ合い、食い合っているなら、あなたがたは互に滅ぼされてしまうだろう。』(ガラテヤ 5:15)

だからお互い、いのちの源である神の言葉で、互いに一致し、和合すべきである。神の言葉を基に心を通い合わせ、意思も方向性も一つとなった夫婦の交わりは、とても素晴らしいが、もし、互いに通じ合える共通の言葉が無いまま、情欲だけの「ひとつ」をし続けるなら、それはすぐに発酵し腐ってしまう果実である。たとえ一時の感情の盛り上がりで、体が一つになっても、心の方向性や人生観といった「内なることば」が一致していないなら、その関係はやがて、したたり続ける雨漏りのような日々に変質して行ってしまう。

相手と自分の「内なることば」の方向性が、全く一致できない、という事が、決定的に分かるまでには、ある程度の時間がかかるものであるが、もしその間に子供が生まれ、生活や、社会的地位が取り返しがつかないほど「ひとつ」になってしまっていたら、離婚するにしてもしないにしても、大きな傷を引きずってしまう。

私達は、ひとつとなる相手をよく選ぶべきである。そういう事になる前に、ことばによって親密な関係づくりをしっかりと構築し、御言葉と祈りを通して関係を成熟させていく。それは結婚後も、ずっと続けるべきである。

「生めよ、増えよ」という命令は、いのちを建てあげる御言葉を男女で「生めよ増えよ」させなさい、という事でもあろう。二人の内なる言葉が、神の言葉によってひとつに混じり合う事によって、成熟した神の似姿が、また神の秩序と支配が、生んで増えていくのである。健全な御言葉を互いにかけてあって、すばらしい夫婦関係、家族関係、友人や仕事の関係を構築し、楽園のような神の国を広げて行く私達でありますように！

